

# 中学年を対象とした、 絵本活用に関する基本的な考え方

1. 絵本教材の活用について
2. 絵本の読み聞かせの仕方について
3. 絵本活用の工夫
  - In the Autumn Forest (第3学年用)
  - Good Morning (第4学年用)
  - Hi, friends! Story Books (第3・4学年用デジタル教材)
4. ことばへの気付き
5. 参考文献

# 中学年を対象とした、 絵本活用に関する基本的な考え方

「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言（報告）」（平成26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議）では、小学校中学年における外国語活動を導入する場合、次のような方向性を示しています。

「言語や文化についての体験的理解や、外国語の音声等への慣れ親しみ、コミュニケーションへの積極性を中心とする「外国語活動」（活動型）を行い、コミュニケーション能力への素地を養うこととする。」

（『Ⅱ. 必要な改革について 改革1. 国が示す教育目標・内容の改善 （3）改善の報告 ②小学校における改善の方向』）

# 中学年を対象とした、 絵本活用に関する基本的な考え方

また中央教育審議会教育課程企画部会の「論点整理」(平成27年8月26日)では、中学年の外国語活動の内容として、以下のような記載があります。

「中学年からは、外国語学習への動機付けを高めるため、体験的に「聞く」「話す」を中心とした外国語活動を通じて、言語や文化についての体験的理解や、音声等への慣れ親しみ等を発達段階に適した形で養うとともに、指導内容・方法や活動の設定、教材の工夫、他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めることが必要である」

(『6. 今後の検討スケジュール等』)

このような議論、提言を受け、今回、小学校の新たな外国語教育のための補助教材(中学年用)を開発しました。この教材の構成要素は以下のとおりです。

- 3年生用 「In the Autumn Forest」(教室用大型絵本・児童用小型絵本)
- 4年生用 「Good Morning」(教室用大型絵本・児童用小型絵本)
- 3・4年生用 「Hi, friends! Story Books」(デジタル教材)

これらの教材を効果的に活用いただくため、以下に

1. 絵本教材の活用、2. 読み聞かせの仕方、3. 絵本活用の工夫、
4. ことばへの気付きについて紹介します。

# 1. 絵本教材の活用

「Hi, friends! 2」では、コミュニケーション活動として、絵本を題材にした活動を設定し、「Hi, friends! 2 指導編」において絵本の読み聞かせについて、以下のように述べています。

コミュニケーションは、「話す」ことというより、相手の話を「聞く」ことから始まる。聞いて相手の話していることがわかる体験をたくさん児童にさせることが大切である。そこで、児童に聞かせる工夫の1つとして、絵本の読み聞かせが考えられる。絵本の絵から情報を読み取り、状況を理解しながら、児童は相手の話を聞くことになるため、「聞いてわかる」体験をさせやすい。また、選ぶ絵本の内容によって、現実には起こり得ないことを絵本の世界で体験することもできる。さらに、昔話の中には、生きていく知恵や教訓的なことが組み込まれている場合もある。このようなことを踏まえ、外国語活動でも、外国語による絵本の読み聞かせを行うことが考えられる。絵本を題材に、グループでオリジナル絵本を作ったり、物語を劇やペープサートを使って演じてみたりさせることで、絵本の内容をより理解することにつながる。

(「Hi, friends! 2指導編」(文部科学省作成、平成24年度配布)より抜粋)

## 2. 絵本の読み聞かせの仕方

「Hi, friends! 2 指導編」ではまた、外国語活動での絵本の読み聞かせの留意点として、以下をあげています。

- ・指導者は、ジェスチャーをつけ、表情豊かに読む。これらも児童にとっては、物語の筋などを理解するための大切な情報源となる。
- ・単に絵本に載っている文言をそのまま読むのではなく、児童に絵本の絵や筋について時折質問をしながら、児童を絵本の世界に引き込むようにする。
- ・ページをめくる際には、次に何が起こると思うかなど発問し、児童に次の話の展開に興味をもたせる。そうすることで、次はどうなるだろうと児童はより興味をもって、指導者の読み聞かせを聞くと思われる。

(「Hi, friends! 2指導編」(文部科学省作成、平成24年度配布)より抜粋)

### 3. 絵本活用の工夫

#### In the Autumn Forest (第3学年用)

この絵本では、秋の森の中で動物たちがかくれんぼをして遊んでいる場面を扱っています。オニの犬 (dog) は、森の中で隠れている動物の体の一部を見て、I see something ... . と言います。そして、何の動物かを推測して、Are you a ...? と言いながら、動物を次々に見つけていきます。見つかった動物は、それぞれの特徴を踏まえた話し方(イントネーション、リズム、ピッチ)で、見つかってしまった自身の体の部位言い、自身を紹介しています。



年齢の低い学習者を対象とした絵本には、繰り返しが多く使われます。子供たちは、場面が繰り返される中で、語彙や表現にふんだんに触れることで、状況からその言葉の意味を推測し、読み手とともにその言葉を発しながら意味と言葉を結び付けていきます。そこで、この絵本でも繰り返しの場面を数多く扱っています。子供たちは、物語の展開に合わせて、自身の推測があっているかどうかを知りたくて次のページをめくりたくなることでしょう。

隠れている動物とその体の部位等については、右の<表1>に記載しています。読み聞かせの参考にしてください。また最後に意外な場面が設定されていますので、子供たちと最後の場面を予想しながら絵本を楽しんでください。

<表1>

	登場する動物	体の部位	修飾語
かくれんぼをしている動物	dog		
	rabbit	ears	white
	monkey	eyes	black
	bear	head	big
	mouse	nose	small
	snake	body	long
	sparrow	legs	short
	fox	face	triangular
	turtle	back	oval
	raccoon dog	stomach	round
	cow	bottom	square
	horse	teeth	shiny
	cat	paw	cute
tiger	mouth	scary	



すべての動物を見つけた後、不思議な音とともに地面に影が映ります。犬は驚いて、Who are you? と尋ねます。するとどうでしょう、動物たちの頭上には、龍(dragon)が動物たちが遊んでいる様子を見にやってきていたのです。

森の中のかくれんぼを楽しんでいるのは<表1>の動物だけではありません。<表2>・<表3>を参考に、昔話も話題にしながら、それも子供たちと楽しんで探してください。



<表2>

他に隠れている動物					
pheasant	wild boar	sheep	chicken	crane	crab

<表3>

	干支	mouse, cow, tiger, rabbit, dragon, snake, horse, sheep, monkey, chicken, dog, wild boar
日本の昔話	鶴の恩返し	crane
	カチカチ山	raccoon dog, rabbit
	桃太郎	pheasant, monkey, dog
	猿かに合戦	monkey, crab
	舌切り雀	sparrow
	狐の嫁入り	fox
	猫とねずみ	cat, mouse
	ねずみの嫁入り	mouse
	うさぎとかめ	rabbit, turtle



32ページには、絵本に登場するすべての動物を掲載しています。このページの活用法を、以下に紹介します。何度か絵本の読み聞かせした後で、活用ください。

・ポインティングゲームや、おはじきゲームをする。

(進め方は、「Hi, friends! 1 指導編」p.14、23参照のこと)

・カラーコピーして動物絵カードを作成し、カルタ取り、集中カゲームなどのカードゲームをする。

(進め方は、「Hi, friends! 2 指導編」p.30、31参照のこと)

また最後のページ(裏表紙の内側)は、次のような活用例を想定しています。

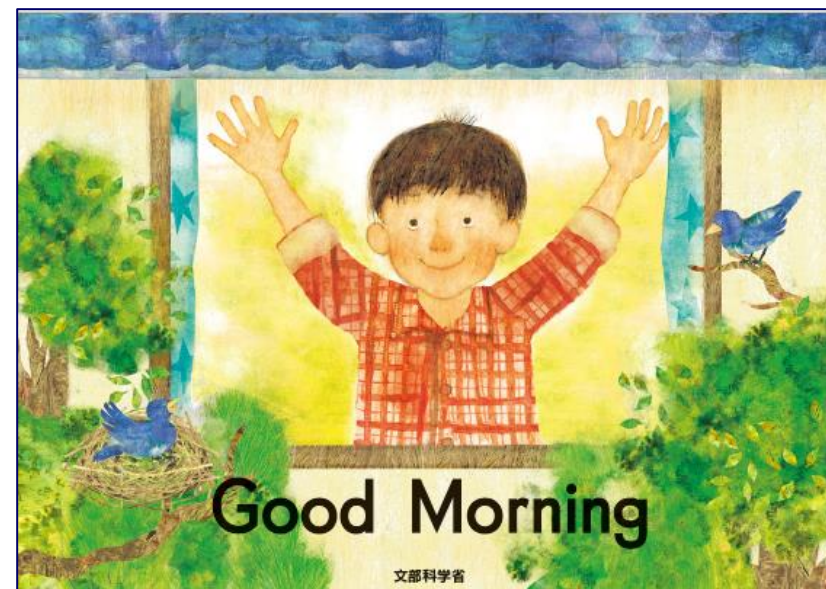
この絵本では、Are you a ...? が繰り返されており、見つかった動物が、Yes, I am. I'm a ... と自分に誇りをもって紹介しています。教室の子供たちにもそうであってほしいと思っています。そこで、このページに、子供が自身の似顔絵や自分を表すものを描き、友達どうしで Are you ...? Yes, I am. I'm .... と伝え合います。

この例を参考に、学級の実態に合わせて様々な活用を工夫してください。



## Good Morning (第4学年用)

この絵本は、ブラジルに住む友達に自分の一日の生活を紹介するという設定で、和(かず)という名の男の子が、朝起きて、夜寝るまでのある一日の生活を扱っています。この話に加えて、サブストーリーも展開されています。



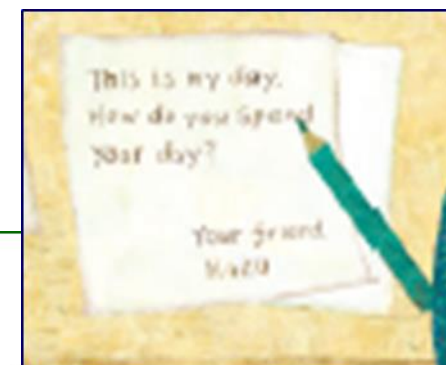
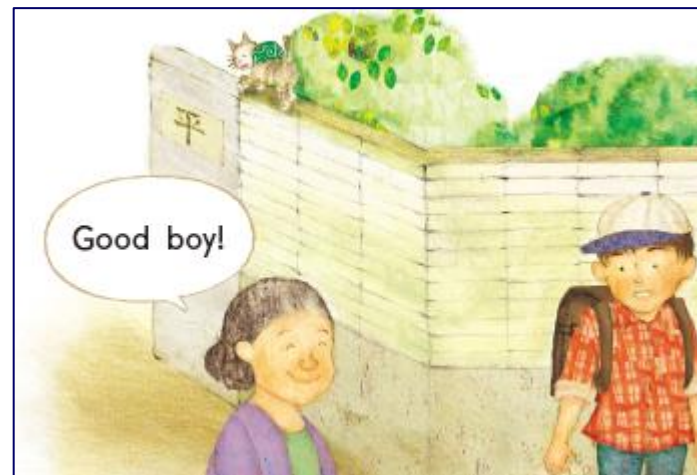
朝、目覚めた男の子の背景にあるカレンダーには、猫が四匹います。しかし、絵本をよく見ていくと、猫が一匹カレンダーから飛び出し、男の子の後を追いかけて学校へ行ったり、公園で遊んだりしています。このように絵本を用いることで、現実では起こり得ないファンタジーの世界に子供たちを導き、豊かな想像力をかき立てます。

また、31ページのカレンダーの猫も、動き出しています。この猫がこの後どうするかを子供たちと考えて、この物語の続きを作ってみるのも、この絵本を楽しむ工夫の一つです。

## 「誰もが生まれてきたことを喜べる世界に」

主人公の男の子の名前は、「平(たいら)和(かず)」です。また、男の子が飼っている犬の名前は「ピース」です。

誰もが生まれてきたことを喜べる、平和な世界になってほしい、平和な世界にしたいという願いを込めて、それぞれに名前を付けました。この願いは、「Hi, friends!」の根底にも流れています。



# Hi, friends! Story Books (第3・4学年生用デジタル教材)

Hi, friends! Story Books には、絵本の読み聞かせの音声と Good Morning のチャンツが収録されています。チャンツは、2種類のバージョンのほか、速さの異なるもの、リズムだけのものがあります。

外国語活動の内容や児童の実態に応じてご活用ください。なお、デジタル教材添付資料にも記載されているとおり、以下の動作環境と注意事項を参照の上、お使いください。

## ◆動作環境

- ・OS: Windows® 7/8/8.1/10
- ・CPU: 上記OSが快適に動作すること
- ・メモリ: 上記OSが快適に動作すること
- ・ハードディスク: 約1.5GB以上の空き容量が必要
- ・DVD-ROMドライブ(インストール時に必要)

※2016年3月時点での動作環境です。

Microsoft, Windows, は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。



## ◆注意事項

- ・本コンテンツはハードディスクからの起動を前提としています。DVD-ROMからハードディスクの任意の場所にフォルダーを作成しすべてコピーしてお使いください。
- ・本コンテンツは“Strat.exe”をダブルクリックして起動します。
- ・本コンテンツは画面解像度に依存します。起動時に解像度にあった最適なプログラムが起動しますが、画面がきれいになってしまうなどの不具合がある場合は、解像度毎のフォルダー内の“menu.exe”をダブルクリックで起動してください。
- ・本コンテンツはデュアルディスプレイには対応しておりません。必ずシングルモニターに設定して起動してください。

## 4. ことばへの気付き

「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言(報告)」(平成26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議)より

(母語の教育と「ことば」への気付き)

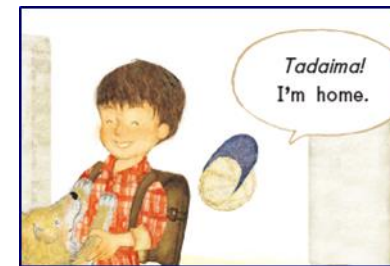
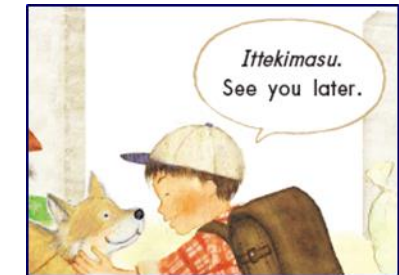
○ 小・中学校の目標は「言語や文化への理解」があるが、日本語の「言語」という語は曖昧で、個別の日本語、英語、スワヒリ語、日本手話など個別の言語を表す場合と、「ことば」一般ということを表す場合の両方がある。英語教育においては、「ことば」という視点を導入することによって、国語との連携、母語の効果的運用のための力を育成、外国語の効果的運用に必要な外国語知識を身につけるための基盤が形成できることから、

- ・小学校段階で母語を利用して、「ことば」の仕組みや働きに気付かせること
- ・世界に多くの言語があることを理解させる配慮が必要であること
- ・豊かな「ことば」への気付きは母語と外国語の効果的な運用を可能とすることが重要であり、「ことば」への関心を高めることが必要との指摘があった。

⇒ 本教材においても、言葉を大切に扱うという趣旨が根底に流れています。

Good Morning では、前述のとおり、ブラジルに住む友達に一日の生活を紹介するという設定のため主人公の和が英語を使っていますが、日本語を使っている場面があります。次の四か所です。

- ・朝食を食べる際「いただきます。」(p.10)
  - ・夕食を食べ終わった際「ごちそうさま。」(p.26)
  - ・学校に出かける際、犬に向かって「行ってきます。」(p.14)
  - ・帰宅した際、犬に向かって「ただいま。」(p.22)
- これらは、ローマ字表記(イタリック体)で示すとともに、後者二つについては、出かける場面、帰宅した場面で子供がよく使う英語、“See you later.” “I’m home.”を合わせて記載しています。



日本で、食前食後に、「いただきます」「ごちそうさま」などと挨拶をするようになった経緯については様々な考えがあります。近年、学校では昼食をそろっていただく際に、魚や肉、野菜など食材の命をいただくこと、調理してくださった方等への感謝の気持ちを込めて挨拶をすることが多いようです。

一方、外国語でも、このような場面に挨拶がありますが、日本語でのこれらの挨拶とピッタリ同じ性格のものではないようです。そこで、日本語の挨拶の言葉を大切にしたいと考え、ここではあえてローマ字表記で日本語での挨拶としました。

また、出かける際や、帰宅した際に、日本では、「行ってきます」「ただいま」と挨拶をする習慣があります。英語でも、“See you later.” “I’m home.”などと挨拶をすることがあります。しかし、これらの表現も、日本語の挨拶と完全に同じ性格のものとはいいがたいため、日本語と英語を併記しています。



## 5. 参考文献

- ・英語教育の在り方に関する有識者会議 「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言(報告)」(平成26年9月26日 )
- ・中央教育審議会教育課程企画部会 「論点整理」(平成27年8月26日)
- ・「Hi, friends! 1 指導編」(文部科学省作成、平成24年度配布)
- ・「Hi, friends! 2 指導編」(文部科学省作成、平成24年度配布)